

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年6月28日 午後7時～8時29分  
会 場 中福岡集会所（中福岡自治会）

参加者 31人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆3. 11が発生した時に、災害時要援護者が15人いるので、防犯防災担当者と一緒に確認に行った。個人情報の関係でどこにだれがいて、だれが支援するかを知っているのは私と防犯防災担当者の2人だけである。避難訓練の時、個人情報の関係で皆に名前を教えられないが、車椅子の要援護者の人は分かってしまうのでどうするか迷っている。個人情報をどう扱ったらよいのか。12月2日の時にどのように声を掛けようか悩んでいる。
- ☆今度説明会がありますが可能な範囲で要援護者の支援をして下さいとしています。12月2日は寒いのでどうかと考えているが、避難所に行ったことがないので行きたいという方もいる。名簿については、民生委員にも渡っていますが、本人の了解を得られれば他の人に教えてもよい。命を救うことが先決と考えている。
- ◆要援護者には該当しないが、社協による70歳以上の独り暮らしの人30程を見守るチームがあり、民生委員が担っているので、要援護者は自治会でやるとしている。
- ☆本人の所を回る時に情報を他の人に教えてよいか聞き、了解を得られれば名簿を渡しても良いが、転出や入院などがあり月1回情報の更新をする必要がある。また、どなたに名簿が渡っているかを把握していただく必要があるのでご注意願います。
- ◆12月2日の防災訓練では、ここの避難所は福岡小と花の木中の2つがあり、どちらの地域がどちらの避難所かを知るよい機会になる。
- ☆それだと訓練に過ぎないので、災害が発生する時期が、平日か土日か、昼か夜か深夜か、冬か夏か、食事中かなどにより被害が違ってくる。冬の北風が吹いている夕食時であれば火災が発生します。その時には決まった避難所方面に煙が発生していたらそちらに行くのではなく、まずは近くの安全な場所に逃げて、落ち着いてから避難所に行ってほしい。これが一番大切なことで、いかにしても生き残ってほしい。また、想定外を考えて備えてほしい。12月2日は防災倉庫の中身も見て、防災意識を高めてほしい。地域にいる要援護者を地域が守るような地域の絆を築いてほしい。また、今日聞いたことを他の人にも伝えてほしい。

◆死者を一人も出したくないとのことであるが、どのようにしていくのか。

☆防災計画の見直しについて、いままでのものは想定を少し甘く見ていた。また、国の示す基準が大幅にずれていることがわかったので、厳しく見直しをしていきたい。

◆庁舎など避難所となる施設の耐震化は図ってもらいたい、一般の家の耐震化はまだ図られていないのではないかと。

☆昭和56年6月以降の新耐震基準で建設された木造住宅は大丈夫であるが、それ以前の木造住宅は耐震化が必要で、だいたい3割程度あると言われている。

◆住宅が倒れた時に火を消す自主防災組織が重要で、自分たちの地域で火災があった時に自分たちが設置した消火栓を使用して消防車が来る前にある程度の対応ができた。それは、年1回防火訓練をやっていたためにできたこと。しかし、消防ホースがかなり老朽化し交換時期にきている。市として何か支援ができないか。

☆簡易消火栓については、有効と考えている。しかし、それは水道管の水が出ることが前提となる。問題なのは、その簡易消火栓の管理が消防や行政や町会・自治会であったりとまちまちであることで、現在その調査をしている。今後実態に即して検討をしていきたい。簡易消火栓については、開発が行われた時に設置されたもので、当時消防では自分で管理するかどうかを尋ね、自分で管理するとしたものは受けなかった経緯があるようです。ただし、数が多くなると消防では管理しきれない状況になります。

◆消防車や救急車が入れないような狭い所に家を建ててよいのか、そのような所に建てられる街づくりをしているのだから救済も何もないとなってしまう。市として要件を定めるべきではないか。

☆現在は、建築基準法などの規制があるが、今までは、農道が道路として開発された住宅があることは事実です。では、消防車が入れないような所で火災が発生した時にどう対策するのかを考えた時に、簡易消火栓は有効な手段と考えている。なんでも市で負担することは財政的に難しいが、消防や行政で管理しているものもあるので、皆さんで管理しているものはある程度公で管理することが基本だと思います。また、木造住宅の分布図を作成しているので、密集している所には多く消火栓を置くなどが考えられるが、現在基本となる計画の見直しをしている。優先順位は高いと思うので検討し、スピーディに対応したい。市は国の制度に則って事務を進めることが基本であるが、制度が変わらなくても市が何とかしていくことが必要で、その中で受益者負担が必要な場合には皆さんにお願いすることもあります。

◆体験する訓練は大変役に立つので、各町会・自治会に広げてほしい。

◆井戸水を合同で設置することは賛成、避難場所の近くに設置してほしい。

◆活断層はこの近くにあるのかどうか。

☆立川断層、深谷断層、綾瀬川断層があります。そこを震源とした場合には、本

市では震度6弱を想定している。

◆その時にはかなりの被害が出るのではないか。

☆震度だけで家屋の倒壊が多いかどうかはわからない。東日本大震災は、家屋の倒壊はそれほどではなかったが、阪神淡路大震災では倒壊が多かった。これは周期の違いによるもので、それにより被害が変わってくる。

◆通信網として整備する52施設はどこになるのか。

☆無線電話を学校、避難所に指定されている所、公共施設に整備します。基地局を第2庁舎に設置し、増築棟ができたならそちらに移します。また、来年完成する大井総合支所にも同様に設置し、本庁がだめになった場合は、そちらに本部を置くことができます。

◆電気はどう考えているのか。ガスにする考えは。

☆現実的にはむずかしい。

◆今度できる焼却場は、外部電源が切れたときの非常電源はどうなるのか。

☆自前で賄うのは難しいが、循環型社会として余熱利用はします。3.11の時は1万5千世帯が停電した。特にマンションでは水をポンプで上に上げることができずに、給水車を出した経緯があり、他の会場では、マンション管理組合の方が来て、町会に入る必要性を感じていた。今度、市では電気をPPSに変更し庁舎で約30万円、公民館3館で約60万円の節約になる。皆さんの税金であり値上げをそのまま受け入れることはできなかった。現在、学校も検討している。

◆ガス管が入っているが許可はどこが出すのか。

☆道路占用許可として市が出します。

◆5年程前に市に耐震診断をしてもらったが、今も実施しているのか。

☆建築課で簡易診断を実施しています。建築確認の図面を窓口を持って行けば診断できます。

◆災害時に怪我人を受け入れる病院は大丈夫なのか。

☆2市1町の東入間医師会と協定を結び、話し合いもしている。しかし、災害がいつ起こるか、平日か土日か、正月かお盆かによって医者がいるかどうかが変わってくる。ある程度の規模の病院でも怪我人で一杯になれば機能しなくなり、広い公共フロア等が救護場所になるかもしれない。周りからどれだけ早く医師が派遣されるかによることとなる。また、大宮にある自衛隊の32普通科連隊がふじみ野市を担当し、そこから救護担当が来ることも想定される。72時間の範囲内でいかに早く外から支援が入ってくるかによると思う。

◆3.11の時に防災行政無線から何も流れなかったが。

☆電話が通じなくて公共施設間や消防署とも連絡が取れず、被害状況を把握できなかった状況や保育所、学校などの対応に追われてしまい、防災行政無線にまで手が回らなかったことは反省点です。また、聞きづらい点が問題で、何が流れたかわからないと不安を煽ってしまうことがあります。しかし、少なくとも

「落ち着いて下さい。」などを流すべきであった。

◆夜間の防犯パトロールを市全体で年1回か2回程度実施してはどうか。

☆防犯パトロールの日などを設けるなどして、警察にも協力してもらおうとよいのではないか。